

特集

地方鉄道に未来はあるか 増す自治体負担、観光需要に活路

10

第2特集

地域おこし協力隊、4000人時代 約6割が任期後も定住、地域づくりの一翼に

26

- 2 村木厚子の直言 新連載
- 4 ニュース & インサイド
- 7 霞が関 底流伏流 (金融庁)
強まる地銀への“経営介入” 実情踏まえ改革に混乱
- 8 自治体に迫る危機 樋渡流解決策
人口減に立ち向かうには、地域コミュニティの再生必要
- 38 グローカルインタビュー
岐阜県飛騨市長 都竹 淳也氏
- 41 観光再生戦略 渡辺 清一郎氏
改めて問う「観光立国」とは何か
- 42 リポート
議員のなり手不足への対応
- 46 地方創生の旗手
NPO法人 島の風理事長 納戸 義彦氏
- 48 新・奮闘地方議員
北海道鷹栖町議会議員 青野 敏氏
- 50 自治体財務改革 基本と実践 稲沢 克祐氏
公会計は「作る」から「活用」へ
- 52 自治体経営を考える 平嶋 彰英氏
憲法における地方自治の変遷を見る
- 54 一枚の絵にみる地方の昨日、今日、明日 藤波 匠氏
移住対策は暮らしの環境改善事業

- 56 人材ビッグバンのスズメ 神門 善久氏
技能低下が止まらない日本農業
- 58 これからの都市防災 廣井 悠氏
帰宅困難者対策、事業所はどうすべきか
- 60 課題解決型組織のつくり方 出馬 幹也氏
組織の変革を加速する経営管理層の意識と行動
- 62 Interview首長
長崎県対馬市長 比田勝 尚喜氏
- 63 ニュース・ウォッチング
- 68 Book Review/バックステージ



〈表紙の写真〉夕暮れの田んぼを走るひたちなか海浜鉄道のキハ3710

ひたちなか海浜鉄道 (茨城県) は車窓から海がほとんど見えず、ひたすら水田地帯を走る。ユニークな駅名標は、大学生らのアートプロジェクトが制作し、各地域の特色を絵文

字で表現した。阿字ヶ浦駅は茨城県名物のアンコウ、温泉、釣り針、海藻が描かれている (写真上)。吉田千秋社長は「これを目当てに乗車するファンもいる」と話す。

阿字ヶ浦駅の約3km先には国営ひたち海浜公園があり、ネモフィラやコキアが咲く季節には無料臨時バスを運行している。
(文=杉野 耕一、写真=遠藤 宏)